

平成 25 年 4 月 15 日

報道関係各位

### 復興C a f eの開催について

本学学生ボランティアセンターと復興 girls&boys 主催の「復興C a f e」が 4 月 27 日（土）に本学学内において下記のとおり開催されますのでお知らせします。

当日の取材等についてよろしく願いいたします。

記

#### 1 目 的

本学では学生ボランティアセンターを初めとした学生によるボランティア活動団体が複数設置されており、それぞれ連携を図りながら被災地の復興支援等に向けた活動が行われております。

「復興C a f e」は、各団体のこれまでの活動内容の報告とともに紹介ブースを設置し、学生や教職員等の活動参加の促進とともに相互連携による新たな活動機会の創出を図ろうとするものです。

#### 2 日時及び会場

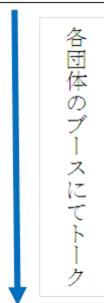
- (1) 日 時 平成 25 年 4 月 27 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分
- (2) 会 場 岩手県立大学 学生ホール棟（学食 3 F）

#### 3 対象者

学生、教職員ほか

#### 4 内 容

◆Café 形式（復興 girls よりコーヒーとシフォンケーキの提供あり）

13:00 ～	☆Café Open☆	活動報告
13:30～		
13:30～13:45		復興 girls & boys
13:50～14:05		災害復興支援センター
14:10～14:25		カッキー's
14:30～14:45		水ボラ
14:55～15:10		結-You-
15:15～15:30		学生ボランティアセンター
15:35～15:50		いわて GINGA-NET
～16:30	☆Close☆	

#### 5 その他

(1) 活動報告・ブース展示団体

- ①復興 girls&boys ②カッキー's ③水ボラ ④学生ボランティアセンター ⑤いわて GINGA-NET  
⑥「結-YOU-」※盛岡大学 ⑦災害復興支援センター※大学事務局

(2) 関係団体

共催：災害復興支援センター（事務局：大学事務局企画室総務財務課）

(3) 留意点

提供されるコーヒー及びシフォンケーキは有償ですが収益は全て「みやこワークステーション」（宮古市）へ寄付されます。

【この情報に関する問合せ先】企画室 総務グループ 菊池 茂・豊間根正明 TEL：019-694-2032



〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52 [www.iwate-pu.ac.jp/](http://www.iwate-pu.ac.jp/)

これは最も強固な形状といわれる「ハニカム構造」をモチーフに、県立大学と短大、大学院との結びつき、県民との強いつながりを表しています。  
Copyright © 2011 IPU All Right Reserved.

学生ボランティアセンターと  
復興girlsなどの仲間が集まり、  
カフェをOPENします！

「岩手を、いや世界を変える」  
と意気込む人たちが、コーヒーや  
シフォンケーキを用意して、  
皆さんの来店を待っています。  
一緒に「これから」を  
語り合いませんか。

店長より



復興  
Cafe

@県立大学食堂3F

4/27 13:00~16:30

お問い合わせ 協力：災害復興支援センター  
店長 小原裕也；9021j008@s.iwate-pu.ac.jp



岩手県立大学

Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52 [www.iwate-pu.ac.jp/](http://www.iwate-pu.ac.jp/)

これは最も強固な形状といわれる「ハニカム構造」をモチーフに、県立大学と短大、大学院との結びつき、県民との強いつながりを表しています。  
Copyright © 2011 IPU All Right Reserved.

～復興Cafeの成り立ち～

東日本大震災から2年が経過しました。

現地からは「現地の今を伝えてほしい」、  
「次の災害の時には同じ思いをしてほしくない」  
といった声が聞こえてきました。

同じ岩手とはいえ内陸部でも風化は進んでいる  
ように思います。

また、「何かしたいのだけどどうすれば良いの  
か分からない」という声も少なくはありません。

その点で、現地で活動している私たちが  
「伝える」ことは同じ世代に届ける上で  
意義のあることです。

学生に向けて現地の「今」を伝え、  
個々で活動していたものを点と点から線にし、  
いずれは岩手の学生として様々な団体が連携し合った、  
網にしていくことを目指します。

人が集まり、飲み食いをしながら、出会い、交流し、  
情報を交換し、議論を戦わせ、悪たくみをめぐらす。

そんな社会的機能を受け持つ装置がカフェだとすれば、  
新たな活動を生み出し、  
復興を担う若者たちが飛び出していくための場所が  
「復興Cafe」であって欲しい。